学校自慢

地域とともに歩む

いすみ市立大原中学校長　田邊（たなべ）　稔（みのる）

1　はじめに

本校学区は、東部が太平洋に面し、内陸は里山が広がり、豊かな自然環境のもとで培われた農水産物や観光資源に恵まれている。「大原はだか祭」に代表されるように、明朗快活な気質と人情味は今なお引き継がれ生き続けている。しかし、東日本大震災時には、津波により浸水被害が発生した。本市においては地震・津波への備え、人口減少や地域経済の活性化等が課題となっている。

2　地域と連携・協力した取組

これからの厳しい時代を生き抜き、地域を担う生徒の育成を目指し、保護者、地域と連携・協力した教育を推進している。

⑴　地域に根ざした防災学習の展開

地域の災害リスクを正しく認識し、自分の命を守り抜く主体的な行動力と、共助の心の育成を目指している。市危機管理課や防災士等の指導を受け、教師・生徒・保護者が共に学び、課題解決に取り組んでいる。地区毎に作成した防災マップを説明する機会を設けたり、市避難訓練に参加させたりする中で、地域の防災リーダーの育成に努めている。

防災マップの説明

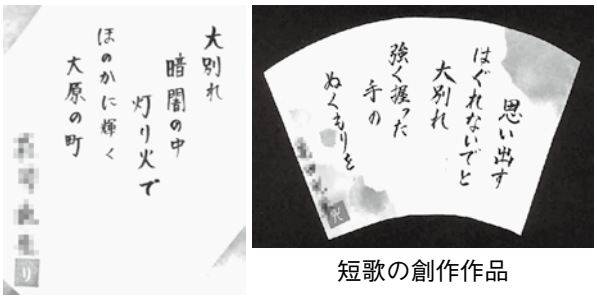
⑵　地域の魅力と課題を学ぶ地域学習

①　「港の朝市」から学ぶ学習

大原漁港で開催されている「港の朝市」を学びのきっかけとして、市の魅力や課題を調査・発信する学習を行っている。市水産商工課より講師を招き、「朝市開催のきっかけや経過等の学習」や、朝市出店者から話を聞いたりする中で、地域への関心を高めている。

②　地域社会に参加する言葉を学ぶ学習

地域の担い手を育てるため、地域に参加するコミュニケーション能力・態度の育成を図る地域単元を設定している。「大原はだか祭」を学習材とし、「聞き書き」を中心に地域の人たちへのインタビュー・短歌創作・聞き書き集作成・手紙文作成に取り組んでいる。



短歌の創作作品

⑶　保護者・地域と連携した部活動の推進

ほとんどの部が、地域の人や保護者から継続的に熱心な指導を受けており、生徒たちは、技能のみならず、人間的にも大きく成長している。

3　終わりに

地域を担うリーダーが育ち、地域が活性化することを願っている。今後も学校と地域がパートナーとして連携・協力しながらの学びを創造して「地域とともに歩む学校」でありたい。